

西国街道を歩く 第6回 豊川～高槻

新井 皓之

大阪に住んで40余年。それまでいくつかの地に居住したが、もとはと言えば日々、富士山を眺めて育った静岡生まれである。“大阪のこととどれだけ話せますか”…一念発起?して大阪歴史博物館友の会会員となった。住んでいる大阪のことを知りたい、人に語ることでできるようになりたいからである。展示会場を見ることより「学芸員の諸先生の解説つき歩き会」に参加することが大好きである。加えて「事前説明会」が楽しみを倍加させてくれる。時には聞くだけでもう歩いた気分になれる。

12月7日(日)、本シリーズ第6回目である。この季節には得がたい好天に恵まれ、大阪モノレール豊川駅に48名が集合、スタートである(この豊川駅もはじめての利用である)。

「椿の本陣」(茨木市)の前に立つ。これが約290年ほは原形をとどめている江戸時代の本陣(大名・公家・幕府の役人が利用する宿所)である。正門の左側には椿の大きな木がある。保存されている建物でなく、今も使用されている建物である(本陣時代から梶家の所有であり、現在も当家が住居として使用している)。昭和23年12月、国史跡に指定されている。

本陣には1696(元禄9)年から1870(明治3)年までの宿帳が残されており、かの忠臣蔵に登場する播州赤穂

城主浅野内匠頭が刃傷事件の前年、1700(元禄13)年5月に宿泊(最後の参勤)しており、この事件の結末、浅野家断絶の赤穂城受け取り役脇坂淡路守もここに宿泊し、赤穂へ向かったのである。まことに歴史の皮肉なめぐりあわせである。一方、正門横の番所の羽目板には丸亀藩士が書いたといわれる「春雨や 淋しさもなし 郡山」の句が残る。四国から上ってきた武士が畿内のにぎやかさに接して心浮ついたのか、これはまさに「旅」。

私はしばし本陣の前に立ち続けた。ご当家が、そして関係する地域の方々の努力があればこそ、現存する本陣に接することができたのである。ありがたいことである。

今回、シリーズ第6回目の私の目玉は「椿の本陣」である。私の生まれた静岡県には東海道五十三次のうち、22の宿場、そして本陣がある。なかでも「由比本陣」は東海道屈指の本陣といわれ、たびたび足を運び、興味を持ち続けている。地図・案内書等に宿駅・本陣の表示があると、つい訪ねて行く。今回は本陣のなかに入ることができなかったため、下に「茨木市史」から見取り図を転載しておく。

さらにこんな言葉を思い出した。“忘却と無関心は、文化を蝕む”。引き続きシリーズに参加しようと思うのである。



椿の本陣にて(近藤信子さん撮影)



「椿の本陣」見取り図

山辺の道周辺の古墳と資料館を訪ねる 第2回

田村 節子

山辺の道とは古人の旅情がよみがえる古い社寺と古墳が数珠つなぎにあり、最古の街道と思わせるところ。晩秋の頃、好天気に恵まれた11月26日(水)、会員33名に参加いただき、学芸員文珠先生の解説で、山辺の道のなかほどにある大和古墳群のなかの柳本古墳群、菅生古墳群と呼ばれる古墳群を巡るコースをたどりました。黒塚古墳、黒塚古墳展示館、行灯山古墳(伝崇神天皇陵)、獅山古墳、青垣トレイルセンター、長岳寺、中山大塚古墳、西殿塚古墳(手白香女衾田陵)、東殿塚古墳、燈籠山古墳、下池山古墳、西山塚古墳、大和神社が今回の見学地です。

崇神天皇陵の西にあたるJR桜井線の無人駅柳本駅に集合。まず、古墳時代前期(3世紀後半～4世紀)の古墳と推定されている小高い丘のような所にある黒塚古墳へ。1998年に古代の銅鏡三角縁神獸鏡33面が発掘され、大和王権にかかわる有力者の墓とみられ、邪馬台国との関係かと注目!! 堅穴式石室の存在も明らかになり、すぐ近くの展示館に復元されて見学ができます。続いて、晩秋とはいえ汗ばみながら崇神天皇陵へ。「勾岡上陵(まがりのおかのうえのみささぎ)」の名の通り道はぐりと曲がり、水に映る松の影、陵墓の緑に映える白砂がすがすがしい姿…のはずだったが、今回は堀中が掃除中で水はなく残念!だが山辺の季節彩りも満喫し、青垣トレイルセンターで昼食。ホッと一息入れた後、長岳寺から柿畑の丘づたいにアップダウンの多い丘もクリア…丘はすべて古墳跡だという。

昔集落ごとに自衛のため築いた堀の一部が竹ノ内環濠集落として残る。集落をあとにしてJR長柄駅近く、鬱蒼とした森の中に鎮座する今日最後の見学地、43ヘクタールにのぼる広大な大和神社へ。祭神は大和国魂大神、八千戈大神、御年大神を祀っており、4月1日の例祭では「ちゃんちゃん」と寺の鐘を鳴らしながら神輿行列がある。神仏混濁時代の名残だそうです。秋日和の一日、万葉の街道がますます楽しくなってきました。次回が楽しみです。ありがとうございました。



黒塚古墳の前で

兵庫県立考古博物館の魅力

兵庫県立考古博物館 学習支援課 村上 賢治

1月11日(日)は兵庫県立考古博物館にお越し下さいまして、ありがとうございました。楽しんでいただけましたでしょうか?

当館は、平成19年10月13日に県立博物館としては歴史博物館、人と自然の博物館、美術館に次ぐ県立博物館4番館として、国史跡「播磨大中遺跡」に隣接して開館しました。「堅苦しい」「触ってはいけない」「おしゃべりしてはいけない」といった従来の博物館が持つ近寄りがたいイメージを払拭するため、「楽しく・遊んで・学ぶ」をモットーに事業を展開しています。開館直後の混雑はありませんが、親子そして三世代でのご来館が多く、また保育園や幼稚園からも多くお越しいただいております。

展示は、テーマ展示室・特別展示室・体験展示室「はっくつ広場」といった3つの展示室の他に、東入口入ってすぐに大きな土器が並ぶ「時のギャラリー」、小規模な展示を行うメインホール展示、地下1階の収蔵展示などがあり、出土品の収蔵庫や出土品の整理作業の様子もご覧いただくことができます。体験展示室「はっくつ広場」は、発掘現場の再現と、考古学に親んでもらうことを目的とした展示室で、中でも発掘調査の疑似体験ができる「発掘プール」はお子様には大人気のコーナーです。小さなお子様と一緒にいった親御さんが夢中になってしまうことも多々見かけられます。

西入口を入ってすぐにある体験学習室では、勾玉づくり・石包丁づくり・組紐づくり、火おこし、パズル、塗り絵といった体験が、(時間の制限はありますが)開館日はいつでも体験できます。募集型の古代体験講座(要予約)も随時行っています。秋には、県内外の古代体験メニューを一堂に会した「考古博古代体験・秋まつり」を、地元開催の「大中遺跡まつり」と同時開催しており、昨年は15,000人に参加いただきました。平成21年は11月7日(土)に開催する予定です。またのご来館を心よりお待ちしております。



大中遺跡で説明を受ける。

甲子園会館(旧甲子園ホテル)とヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)見学会に参加して

戸田 健治

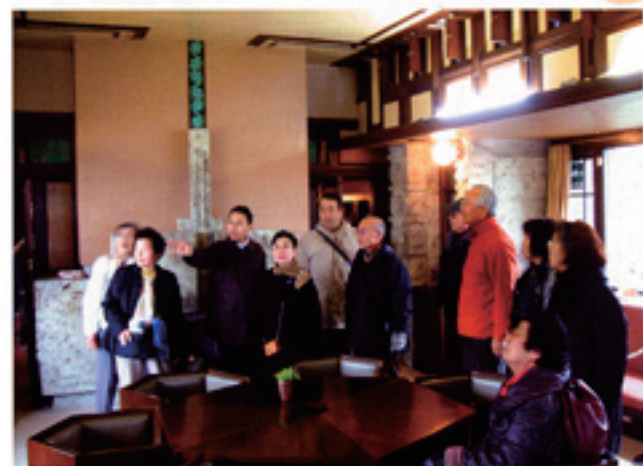
生憎の冷たい雨の日になった。59名の参加者がJR甲子園口駅に集まった。午前中、女子大では珍しい武庫川女子大学建築学科となっている甲子園会館(旧甲子園ホテル)の見学だ。震災後の新しい邸宅の間から重厚な素晴らしい会館が遠望できたが、これが西の帝国ホテルといわれるフランク・ロイド・ライト式の数少ない建物のひとつである。会館の前田氏の丁寧な説明も学校の授業中とのことでよく聞き取れないが、中央に玄関を、左右に大きく食堂と宴会場を配し、昭和5年にホテルとして開業したという。ライトの愛弟子遠藤新の設計による本建物は戦後米軍の将校宿舎となり、昭和32年には大蔵省の管理下に、そして昭和40年に大学へと転身をとげた。

童話の打出の小槌をモチーフにしたアナコックの飾りつけと茶色のタイル、日本の伝統美の緑の庭園など、落ち着いた外内部のホテルでの優雅な宿泊をエンジョイさせる道具立てがととのっている。ただし広間への入口を狭く取り、内へ入ると部屋を大きく見せるという仕掛けは現在では危険防止の観点からちょっといただけないと感じた。廊下からの階段も凝りすぎと感ぜられるくらいであったが、建築学科の学生には生きた教材としてぜひ充分に活用してもらいたいものである。

一度解散したのち午後1時にJR芦屋駅で再集合した。芦屋の邸宅街を20分近くぬけ、いったん坂の手前から酒井先生の説明を受けながらヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)の全体を遠望した。その後、急坂をのぼり迎賓館に入る。内部が狭いため2班に分かれて見学を開始した。この建物はライト本人の設計によるもので大正12年の建設。非常に凝ったつくりで、関東の大谷石をふんだんに用い、彫刻や作り付けの家具、飾り銅版など、その時代では通常考えられなかったものばかりである。上部にも凝ったつくりのはめ殺しの小窓があった。ガラス窓をこえての景色やバルコニーから見える芦屋の街並みも絶景である。

ちょうどこの季節は毎年雛人形の展示があり、灘五郷の造り酒屋「桜正宗」の主人が長女のために京都の著名な人形師に注文して作らせた雛人形のほか、明治天皇似の花親人形・花嫁人形が見学できた。その繊細かつ優美な表情はいずれもすばらしく、また衣装や道具に「桜正宗」らしく桜の花がデザインされている点も目を引く。

こちらの建物も迷路のようで、やはり玄関が異常に狭いなど、不思議な構想であると感じられた。子どもが遊ぶには最適か? いずれにしても大正の末や昭和初期の建築が大震災をくぐりぬけその勇姿を拜めるのはありがたいことと感じた次第である。



ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)の応接室にて



甲子園会館(旧甲子園ホテル)の庭から建物をのぞむ

連載

「浪花百景」～森の宮蓮如松～

第9回

千倉 康由

大阪市中央区森ノ宮 鵠森宮(通称森之宮神社)
 蓮如が本願寺の前身の坊舎を築こうとした時、森之宮神社内のこの松の下に座して宗門の繁栄を祈り、また、宗門とともにこの松が栄えることを当社の神に願ったと伝えられたのが、森の宮蓮如松とのことです。坊舎はのちに大坂本願寺となり、現在の大坂城の地にあったと推定されています。この蓮如松は明治中頃(19世紀末頃)にはすでに枯れ木となり、現在はありません。(境内にある松は、三代目です)



蓮如松があった鵠森宮は、聖徳太子が四天王寺を建立した時に、父母を神として祭るために建てられました。今年、1419年目に当たります。初め境内でも方八町あったと云います。それゆえ古地図、古文献等にも多数記された由緒ある古社であり、用明天皇及び穴穂部間人皇后を祭る日本唯一の神社です。

鵠森宮(通称森之宮神社)は、森ノ宮駅(地下鉄・JR環状線)前にあります。



現在の鵠森宮

特別展

COMING SOON!

～秘蔵のお宝一挙大公開～ 『蔵出し 大阪歴史博物館名品展』

大阪歴史博物館は平成11年に開館して7年が経過し、前身の大阪市立博物館からあわせると約50年の歴史を持っています。市民の皆さんより寄贈していただいた資料及び作品をはじめとして約12万点の館蔵品を所蔵し、また、数多くの文化財をお預かりしています。

今回の展覧会ではこれらの資料及び作品の中から国の指定文化財(国宝・重要文化財)などを中心にこれまで展示の機会が少なかったものを多数公開します。

会期 平成21年4月29日(水)～6月15日(月)

火曜日休館(5月5日は開館、7日は休館)

開館時間 午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時)

入館は閉館の30分前まで

入場料 大人/600円 高大生/400円

※中学生以下・大阪市内在住の満65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)
 ※友の会会員は会員証提示で会期中1回観覧できます。会員証を忘れず。



重要美術品
 袈裟禪文銅鐺(本館蔵)

編集後記

地球温暖化が進むと季節の訪れが早くなり、花の咲く時期もどんどん前倒しになっていくようです。本号が刊行される頃はひょっとしてすでに桜の花見を終えた方もいらっしゃるかもしれませんね。これから季節感を味わう行事を考える際はこうしたことも念頭において計画を立てる必要がありそうです。幹事会では会運営にご関心をおもちの方の積極的な事業参画をお待ちしています。わいわいと楽しい活動と一緒に実現してみませんか?(大)